

別紙様式第5

遺 伝 子 治 療 等 臨 床 研 究 重 大 事 態 等 報 告 書

令和 3 年 11 月 17 日

厚生労働大臣 殿

研 究 機 関	所 在 地	栃木県下野市薬師寺3311-1 (郵便番号329-0498)
	名 称	自治医科大学附属病院 (電話番号0285-44-2111) (FAX番号0285-40-8303)
	代 表 者 役職名・氏名	病院長・佐田 尚宏

下記の遺伝子治療等臨床研究について、重大な事態等が生じたので別添のとおり報告します。

記

遺 伝 子 治 療 等 臨 床 研 究 の 課 題 名	研 究 責 任 者 の 所 属 ・ 職 ・ 氏 名
AADC欠損症に対する遺伝子治療の臨床研究	小児科学・教授 山形 崇倫

報 告 年 月 日	2021年10月29日
-----------	-------------

1. 基本情報

研 究 の 名 称	AADC欠損症に対する遺伝子治療の臨床研究
研 究 実 施 期 間	本臨床研究が承認されてから2025年3月31日まで
多施設共同臨床研究	該当 <input type="radio"/> 非該当

2. 研究責任者及び研究機関に関する情報

研 究 責 任 者	所属部局の所在地	栃木県下野市薬師寺3311-1 (郵便番号 329-0498)	
	所属機関・部局・職	自治医科大学医学部・小児科学・教授	
	氏 名	山形 崇倫	
研 究 機 関	所 在 地	栃木県下野市薬師寺3311-1 (郵便番号 329-0498)	
	名 称	自治医科大学附属病院	
	連 絡 先	栃木県下野市薬師寺3311-1 (電話番号 0285-44-2111)	
研 究 責 任 者 以 外 の 研 究 者	氏 名	所 属 機 関 ・ 部 局 ・ 職	役 割
	村松慎一	自治医科大学・神経内科学部門・教授	副責任者。適応患者の選択・評価 およびウイルスベクターの管理、PET解析
	小澤敬也	自治医科大学・免疫遺伝子細胞治療学・ 客員教授	ウイルスベクターに関する全般管理
	小坂 仁	自治医科大学・小児科学・教授	副責任者。患者の管理・評価
	川合謙介	自治医科大学・脳神経外科学・教授	脳内へのベクター注入の管理・助言
	中嶋 剛	自治医科大学・脳神経外科学・講師	遺伝子導入のための定位脳手術実施
	大貫良幸	自治医科大学・脳神経外科学・講師	遺伝子導入のための定位脳手術実施
	多賀直行	自治医科大学とちぎ子ども医療センター 小児手術・集中治療部・准教授	麻酔・術後管理
	村松一洋	自治医科大学・小児科学・准教授	患者の管理・評価
小島華林	自治医科大学・小児科学・講師	患者の管理・評価	

	宮内彰彦	自治医科大学・小児科学・講師	患者の管理・評価
	池田尚広	自治医科大学・小児科学・講師	患者の管理・評価
	栞島真理	自治医科大学・小児科学・助教	患者の管理・評価
	山岸裕和	自治医科大学・小児科学・助教	患者の管理・評価
	黒川愛恵	自治医科大学・小児科学・病院助教	患者の管理・評価
	田中大輔	自治医科大学・小児科学・病院助教	患者の管理・評価
	若林慶	自治医科大学・小児科学・病院助教	患者の管理・評価
	浅倉佑太	自治医科大学・小児科学・病院助教	患者の管理・評価
	倉根超	自治医科大学・小児科学・病院助教	患者の管理・評価
	大澤美千代	自治医科大学附属病院臨床研究センター 臨床研究コーディネーター	患者ケア、試験実施の支援
	菊地紗奈恵	自治医科大学附属病院臨床研究センター 臨床研究コーディネーター	患者ケア、試験実施の支援
	加藤光広	昭和大学医学部・小児科学・講師	対象患者の治療前および安定後の 診療
	中村和幸	山形大学医学部・小児科学・特任助教	対象患者の治療前および安定後の 診療
	佐藤俊彦	宇都宮セントラルクリニック・院長	PET実施
	峰野純一	タカラバイオ株式会社 バイオ産業支援 事業部門・本部長	ベクターに関する技術支援

3. 総括責任者及び総括責任者が所属する研究機関に関する情報（多施設共同臨床研究に該当する場合は、以下の項目を記載すること。）

総 括 責 任 者	所属部局の所在地	(郵便番号)
	所属機関・部局・職	
	氏 名	
研 究 機 関	所 在 地	(郵便番号)
	名 称	
	連 絡 先	(電話番号)

4. 総括責任者以外の研究責任者及び当該研究責任者が所属する研究機関に関する情報（多施設共同臨床研究に該当する場合は、以下の項目を記載すること。）

研 究 責 任 者 ①	所属部局の所在地	(郵便番号)
	所属機関・部局・職	
	氏 名	
研 究 機 関	所 在 地	(郵便番号)
	名 称	

関 ①	連 絡 先	(電話番号)
--------	-------	---------

5. 倫理審査委員会の見解

倫理審査委員会の 意 見	<p>今回生じた重篤な有害事象については、2021年10月18日に審査を行った。当該事象は、本研究との因果関係は否定できるものと考え、臨床研究法で規定される重篤な疾病ではない。親族からの聞き取りにより報告時点では回復を確認しており、報告内容に問題ないものとして、全員一致で研究の継続を承認した。なお、海外在住であることも考慮し、これ以上の情報収集は求めないこととする。</p>	
	倫理審査委員会の長の職名	氏 名
	自治医科大学中央臨床研究審査委員会 委員長	西野 宏

6. 重大事態等の概要

研究の区分	治療に係る臨床研究	予防に係る臨床研究
研究の目的及び意義	<p>(目的) ヒト芳香族アミノ酸脱炭酸酵素(AADC)欠損症患者に対して、ヒト芳香族アミノ酸脱炭酸酵素 (aromatic L-amino acid decarboxylase : AADC) 遺伝子を組み込んだ2型アデノ随伴ウイルス (adeno-associated virus : AAV) ベクター (AAV-hAADC-2)の遺伝子治療を実施し、その安全性を検証するとともに、運動症状を改善することを目的とする。</p> <p>(意義) AAVベクターの安全性が確認されるとともに、治療法がないAADC欠損症患者に対する治療法が開発される。</p>	
対象疾患及びその選定理由	<p>対象疾患はAADC欠損症 髄液カテコールアミン代謝産物測定、AADC酵素活性測定、遺伝子解析等によりAADC欠損症と確定診断された患者を対象とする。</p>	
実施方法	<p>AADC欠損症患者の線条体(被殻)に、両側2か所ずつ、AADC遺伝子を組み込んだ2型アデノ随伴ウイルスベクター (AAV-hAADC-2)を定位脳手術的に注入し、臨床症状、運動機能、認知機能、PET等の評価を行い、安全性と治療効果を確認する。</p>	
重大事態等の発生時期	2021年9月(報告日)	

<p>重 大 事 態 等 の内容及びその原因</p>	<p>患者 15歳男子 海外在住 2017年に遺伝子治療実施。 2018年に側弯に対する脊椎の固定術施行。 (内容) 2021年9月 患者の親より当院からの定期連絡 (e-mail) の返信あり。 かかりつけ医を受診した際、血尿がみられ経過観察となっていた。エコーを実施したところ結石を疑われCTを施行した。その結果、脊椎を固定している装具が腎臓を圧迫していたとのことだった。2021年7月に入院し安静にして様子を見ていたが、入院5日目に緊急手術 (圧迫解除術) を施行した。術後クロストリジウム感染を起こし、バンコマイシンによる治療を受けたが、術後14日目に退院となり、現在は術前と同様の生活を過ごしている。</p>
<p>その後の対応状況</p>	

<p>備 考 (共同研究機関の実施 状況等)</p>	
------------------------------------	--

(注意)

1. 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とすること。
2. この報告書は、正本1通及び副本2通を提出すること。
3. 字は墨・インク等を用い、楷書ではっきり書くこと。
4. 各項目数行程度で簡潔に記載すること。記載欄に記載事項のすべてを記載できない時は、その欄に「別紙 () のとおり」と記載し、別紙を添付すること。
5. 多施設共同臨床研究に該当する場合は、備考欄に共同研究機関における本重大事態等への対応状況を記載すること。